

令和 7 年度健康推進プランよこすか専門部会
議事録

開催日時 令和 7 年 8 月 21 日（木） 15 時 00 分～
会 場 ウェルシティ市民プラザ 3 階 第 1 研修室
出席者
委 員 磯崎順子、井上宜生、小幡純、笥修一、高橋秀治、
田中和美、土田匡明、林但（敬称略、五十音順）
事務局 川田 貴久江：健康部健康増進課長
望月 由美子：健康部健康増進課 課長補佐（主査）
広瀬 裕一：健康部健康増進課 課長補佐（主査）
竹内 和美：健康部健康増進課 課長補佐（主査）
丹野 泰角：健康部健康増進課主査
橘 小由里：健康部健康増進課主任
須藤 夏加：健康部健康増進課担当者
上田 里奈：健康部健康増進課担当者
松原 大輔：健康部健康増進課担当者
庁内ワーキングメンバー（臨時出席）
板戸 真里：健康部健康管理支援課主査
一般傍聴人 0 名
欠 席 者 0 名

- 1 開 会 事務局（健康部健康増進課長）が司会となり開会した。
- 2 配布資料の確認
- 3 部会員の出欠について
- 4 本部会の流れについて事務局から説明
これより先は、部会長による議事進行で行われた。
- 5 議 事

議事（1）「健康推進プランよこすか」について

・事務局より、「健康推進プランよこすか」は、国の健康日本 21（第三次）を基に策
定し、関係計画の一体化や新たな取り組み分野の追加など策定経緯について説明し
た。

議事（２）「健康推進プランよこすか事業計画一覧」について

●事務局より、資料１により、健康推進プランよこすか事業計画一覧「①栄養・食生活」から「④飲酒」について説明した。

なお、評価基準は、目標の達成率 90%以上が「A」、70%以上が「B」、60%以上が「C」、それ以下が「D」となっている。

●部会長より、意見・質問等を求めた。

部会員意見等 ・①の No. 3「骨密度検診受診者数」について、令和 7 年度目標が減少している理由は何故か。

・④の No. 9「青少年相談事業における巡回指導での年間指導助言件数」について、指導助言を行っているのは誰か確認したい。

事務局回答 ・「骨密度検診」は昨年度までウェルシティ内の健診センターでのみ行っていた。令和 7 年度から市内の協力医療機関で受診ができるようになり、健診センターでの受診者数が減る見込みである。また、健診センターでの対象者を変更し、40 歳から 75 歳までの女性で 5 歳刻みの方を対象としたため、目標人数が下がっている。

・警察 O B の方を会計年度任用職員として採用しており、その方が巡回して指導助言を行っている。

部会長意見等 ・①の No. 36「集団健康教育の参加率」について、参加率なので、回数と人数を減らせば参加率は上がるが、参加率を上げるというよりは、参加人数を増やした方がいいのではないか。

事務局回答 ・参加人数を増やすことが大切であるため、LINE での周知に努め、内容を精査し、市民に伝わりやすいものを心がけていく。

部会員意見等 ・①の No. 36「集団健康教育の参加率」について、忘れにくくするためにリマインドメールが届くということだが、どのような形で届くのか。

事務局回答 ・e-kanagawa で Web 申し込みをされた方については、リマインドメールが届く。

●事務局より、資料１により、健康推進プランよこすか事業計画一覧「⑤喫煙・COPD」から「⑧循環器病・糖尿病」について説明した。

●部会長より、意見・質問等を求めた。

部会員意見等 ・⑤の No. 16「外部講師を活用したがん教育開催回数」について、目標がとても少ないと思う。肺がんはがんの中で死亡者数が最も多く、主な要因は喫煙である。子供の頃から教育することは非常に重要なことで、目標を小学校 1 校、中学校 1 校ではなく、全部の学校にこの教育ができないのか。No. 17「薬物乱用防止（啓発）教室の開催回

数」についても、目標 46 校とあるが、全部の学校に教育すべきと思う。

事務局回答 ・担当部署が保健体育課であるため、現時点では明確な回答はできないが、ご意見については、フィードバックしたいと考えている。

部会員意見等 ・⑥の No. 10「スカリン相談会オンライン相談会実施回数」について、オンライン育児相談の参加者が目標より少なかったとあるが、育児以外の相談もあるのか。令和 7 年度からオンライン育児相談会は随時相談に変更となり、目標件数が 12 減少した理由も教えてほしい。

事務局回答 ・コロナ禍で対面の育児相談ができなかったため、オンラインでスカリン相談会を新たに実施したが、ニーズが想定より少なかったと、聞いている。随時相談に変更し、要望に応じて対応するため、目安として 12 件にしていると思う。相談内容は、窓口が母子担当のため、育児相談であると思う。

部会員意見等 ・⑤の No. 5、No. 6、No. 7 について、記載内容がわからないため、教えて欲しい。「実施率」という表記は「受診率」ではないか。

事務局回答 ・特定健診の結果、検査値が高く、医療機関の受診が必要な方に対して、受診を勧める文書や電話連絡を行っている。例えば No. 5 の場合は 21.5%の方が医療機関を受診しているということになる。これは「受診率」を表すもので、「実施率」ではないため、表記について訂正する。

部会員意見等 ・血糖の対象者が一番応じてくれたということか。

事務局回答 ・おっしゃる通りである。

部会員意見等 ・血圧の対象者はあまり応じてくれない状況か。

事務局回答 ・おっしゃる通りである。電話で確認したところ、「自宅で測ると血圧は低いが、病院で測ると高くなる」という方が多くいた。こうした点が受診率に影響しているのではないかと感じている。

部会長 ・⑦の「がん」について、意見がある。子宮頸がんワクチンは、若い頃からのがん予防ということで、非常に大事だと思う。例えば、「子宮頸がんワクチンの接種率」という項目を入れてみてはどうか。

事務局回答 ・今後、検討していきたいと思う。

●事務局より、資料 1 により、健康推進プランよこすか事業計画一覧「⑨食育の推進」から「⑫ 自然に健康になれる環境づくり」について説明した。

●部会長より、意見・質問等を求めた。

部会員意見等 ・⑨の No. 15「関連各教科における食に関する指導（栄養教諭等の活用も含め）の実践学校数」について、実践学校数ではなく指導回数

に変更してはどうか。文部科学省が栄養教諭を配置している学校に対して個別指導の徹底を指示している点を踏まえ、担当課へ伝えてほしい。

事務局回答 ・ ご意見については、情報提供する。

部会員意見等 ・ ⑩の No. 27 「地域リハビリテーション活動支援事業における専門職派遣事業の実施団体数」について、令和 7 年度の 6 団体は前年度とは別の 6 団体になるということか。

事務局回答 ・ おっしゃる通りである。

部会員意見等 ・ ⑨の No. 4 「地域からの依頼による健康教育の実施回数」について、以前は体育振興会でスポーツと健康教室を組み合わせた講演会などを行っていたが、健康教室の依頼は、地域健康課へ相談すればよいのか。

事務局回答 ・ おっしゃる通りである。

部会員意見等 ・ 依頼には費用がかかるか。

事務局回答 ・ 無料である。

部会員意見等 ・ ⑪社会とのつながりの維持・向上について、社会との繋がり健康にとって非常に大事だと思う。他部署の計画かもしれないが、引きこもり傾向の高齢者に対しての活動があれば伺いたい。

事務局回答 ・ 他部署の「高齢者保健福祉計画」が該当すると思われる。「健康推進プランよこすか」では、引きこもり傾向の高齢者のみを対象としたものではないが、地域依頼健康教室や地域型介護予防教室が関連すると思う。

部会員意見等 ・ 男性は、退職をきっかけに家に閉じこもる傾向があると思う。⑪の No. 12 「地域、職域連携による健康教育の実施数」の活動が非常に大事になってくると思うが、具体的な活動内容を教えてほしい。

事務局回答 ・ 市内企業から依頼を受け、企業を訪問して健康教育を実施している。ある企業では、退職希望者向け説明会において、主に 50～60 歳代の退職予定者を対象に、生活習慣病予防などについて説明する健康教育も行っている。

●事務局より、資料 1 により、健康推進プランよこすか事業計画一覧「⑬誰もがアクセスできる健康増進のための基盤整備」から「⑯高齢者」について説明した。

●部会長より、意見・質問等を求めた。

部会員意見等 ・ ⑭子ども（～17 歳）、⑮成人（18～64 歳）、⑯高齢者（65 歳～）の「夏休みのラジオ体操カード配布数」について、年代別に目標・実績を記載した方がいいのではないか。

- 事務局回答 おっしゃる通りだが、年代別の集計をしていないのが実情だと思う。
- 部会員意見等 ・⑩の No. 37「喫煙防止教室の実施」について、どのような意図で⑩高齢者（65 歳～）に記載しているのか教えてほしい。
- 事務局回答 ・記載の誤りである。当該箇所は削除し、訂正する。
- 部会員意見等 ・横須賀市は、プレコンセプションケアについて神奈川県立保健福祉大学と連携しており、全国的にも珍しい取り組みである。他自治体では実施が難しいとの声もあることから、横須賀市の強みとして、今後も積極的に推進してほしい。
- 事務局回答 ・今後も引き続き推進していく。
- 部会員意見等 ・新・デレラ大作戦のショート動画はどこで視聴できるのか。
- 事務局回答 ・横須賀市の公式 YouTube やホームページで視聴できる。公式 LINE でも動画の周知を行った。閲覧数は 4 部作合計で約 9,000 回である。
- 部会員意見等 ・「健康アプリ利用者数」については、アクティブユーザー数はどのくらいか。
- 事務局回答 ・アクティブユーザー数は、約 3,000 人である。
- 部会員意見等 ・幼少期からの適切な体重管理の教育は非常に重要である。学校での印刷物配布などによる食育・健康教育も有効であり、実際に県内の一部市では高校で印刷物を配布している事例がある。横須賀市でも同様の取り組みが可能であれば検討してほしい。
- 事務局回答 ・若い女性の痩せ対策の一環として、神奈川県立保健福祉大学の協力により、横須賀市立総合高校の 3 年生を対象とした講演会・健康教育を 2025 年 12 月に実施予定である。今後は他の学校への拡大も検討している。
- 部会長 ・小学校などにおける子どもの痩せ・肥満・低身長などの健康状況の把握はどうしているのか。現在検討されている 5 歳児健診の進捗状況について教えてほしい。
- 事務局回答 ・子どもの痩せ・肥満等については、学校で調査・集計を行っている。5 歳児健診については、担当課で前向きに検討が進められていると思う。

ここより先の進行は、事務局が行った。

6 閉会 事務局（健康部健康増進課長）が司会となり閉会した。

（以上）